



中学生向け 年 組

238

2024年11月14日付・下野新聞23面

国史跡の西方城ってどんな城？

栃木市の西方城跡が10月、正式に国史跡に指定された。戦国時代に西方氏が築城し、一大勢力を誇った北条氏側の領主と対抗する拠点だった山城。西方文化財愛護ボランティア代表の中村良一さん(77)と歩くと、武骨な軍事拠点の名残を感じ取ることができた。(荒井克己)

栃木

山麓の長徳寺から伸びる登山道は急勾配だった。ここに転がる石も、当時は石垣だった可能性があるんですよ。先導の中村さんが行く手を阻む小枝を払いながら解説してくれた。

西方城は15世紀後半、宇都宮氏の一族・西方氏により標高221mの西方山(城山)に築かれた。後に関東を席卷する北条氏側に付いた皆川氏や壬生氏らと対抗する軍事拠点になった。

周囲がクヌギやコナラの雑木林に変わると、中村さんが指さした。「ここはた



69

だの道ではなく堅堀なんです。堅堀とは地面を細長く掘り、斜面を伝って攻める敵を防ぐ仕掛けだ。

城跡に塀などの遺構はなく、一見普通の山のようにだが、土塁を巧みに盛って進入路を屈曲させ、攻め手を困難にさせる工夫が各所に見られた。敵を複数の方向から殲滅する枡形虎口を多用し、籠城に必要な水の手も複数確保していた。

最後の城主・藤田信吉が1615年に改易され廃城になるまで戦闘の記録はないが、勢力の境目の城として高い防御力を誇っていた。20分ほどで北の丸周辺に着くと、宇都宮市中心部までよく見渡せた。「まさに天空の城でしょう」。中村さんが誇らしげに言った。

1980年代、西方山に

軍事拠点、強固な防御力



雑木が伸びる本丸周辺

最近では他県から足を運ぶ山城ファンが増えつつあるという。中村さんは「これからどう環境を整備し、魅力を発信していくかだね」と先を見据えていた。(毎週水、木、金曜掲載。県南版は木曜)

設 問

【1】記事の本文で使われている次の熟語の読み方を答えましょう。

①急勾配 ②雑木林 ③席卷 ④斜面 ⑤変遷

【2】日本の城は、大別して「平城」「平山城」「山城」「水城」の四つに分けられるが、この西方城はどの城に分類されるだろうか。記事から探してみよう。

【3】この記事から分かる情報として正しいものには○を、間違っているものには×を書きましょう。

ア 西方城は、15世紀の後半に築城されたもので、

後に関東の一大勢力となった北条氏側の武将によって、軍事拠点として用いられた。
イ 堅堀だった所を進んで行くと、かつての城跡にたどりつくことができ、そこには土塁や石垣の跡など、当時の城の面影を見ることができる。
ウ 軍事拠点であった西方城は高い防御力を有していたとされ、籠城の備えがあったことから、何度も敵の攻撃を防いだことが分かる。
エ 急な上り坂を進んだ先の城跡からは、遠くの景色がよく見渡せることから、案内をしてくれた中村さんは「天空の城」と評した。
オ 栃木県以外からの観光客も近年増えてきており、中村さんはこれから先、さらに多くのファンにこの地を訪れてほしいと思っている。